

助け合いとは何だろう

真鶴町立真鶴中学校三年

粟生 凧 咲

助け合いとは何だと思えますか。そう自分の問うた時、私はあることに気が付きました。助け合いは助けるとは違う。一人が相手を一方的に助けるものではない。互いに助けることが助け合うことだと。

では、私達はどのような時に助け合っているのでしょうか。この問いについて考えるために私が助け合いだと感じたことを三つ紹介します。

一つ目はスーパーでの話です。私は母とお会計の列に並んでいました。私達の前に並んでいたのは八十歳前後だと思われるおばあさん。おばあさんがお会計をして、お釣りを受け取る際、店員さんは小銭を落としてしまいました。小銭はあたりに散らばりません。焦りながら謝罪する店員さんによそに、おばあさんは笑顔で小銭を拾って、

「いいのよ。いいのよ。」

と言って、清算済みの買い物カゴを持ち上げようとしています。ですが、持ち上がりません。重い食品がたくさん入ったカゴをおばあさんが持ち上げるのは大変です。すると、先ほどの店員さんがカゴを持ち上げ、袋詰めコーナーまで運んでくれました。助け合いです。おばあさんは店員さんのミスを、店員さんはおばあさんのできないことを互いにカバーしました。店員さんとおばあさんは助け合ったのです。

二つ目は運動会での話です。私は友達と結ばれた短縄をほどいていました。ですが、縄はこぶ結びになってほどけません。私達が困っていると別の友達に来て縄をほどいてくれました。そして、からまりにくい結び方を教えてくれました。彼女のおかげで私達は練習を始められました。その後、縄をまわしていると先ほどの友達とはぶのが苦手だと分かりました。足が上がっておらず、縄に当たっていたのです。私達はそのことを伝え、アドバイスをしました。助け合いです。互いのできないことを助け合ってできるようにしました。

三つ目は部活で毎日起きる助け合いです。私は友達と二人で一つのメトロノームを使っています。練習が終わったら、どちらかがメトロノームを準備室に片付けます。その間にもう一人は、二人分の机と椅子を片付けます。これも助け合いです。相手に片付けてもらったので、自分も相手の分まで片付けています。

私の助け合いだと感じたことを読んで、当たり前だろと思った人もいるでしょう。その通りです。私達は無意識のうちに助け合っています。助け合いの気持ちは私達の心の中に住む、誰かを思いやる気持ちなのです。

もしも、全人類が助け合いの気持ちを持っていなくなったら、争いが絶えないでしょう。自分が良ければそれでいい。自分がお腹いっぱい食べられるなら、飢え死にする子供など関係ない。そうやって世界は滅びます。

でも、私達が違います。助け合う心を持っているのです。だから助け合いましょう。困っている人には手を差し伸べましよう。困ったときには助

けてもらいましょう。助け合いに時間は関係ありません。助けられてから
助けてあげるまでの時間が空いたって良いのです。みんながみんなを思っ
て助け合いましょう。私達ならきっとできます。なぜなら、みんな助け合
いの心を持った人間だから。